

【解決できない人生の課題】



聖書本文:伝道者の書1章2-8、14節/ 暗唱聖句:ヨハネの福音書 5:24

説教者:鄭南哲 牧師
(Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間もお元気でしたか。朝晩大部気温が下がってます。お体を大事にして下さい。今日の御言葉は伝道者の書を通して共に学んで行きたいと願います。

一度今年旧約聖書講解のメッセージの中で伝道者の書の全体については学んだ事がありますが、今日はこの神の御言葉を記録者であった智恵の王ソロモンでさえ解決できなかった人生の悩みと問題についてどう扱い、どのような結果を見出したのか一緒に学んで見たいと思います。

今日の一番成功した人はどんな人物だと思いますか。アメリカ実業者として2014年度にアメリカの中資産現在810億ドルで1位を取ったマイクロソフト社の創始者ビル・ゲイツでしょうか。それともアップル社の共同設立者の1人であった技術の天才と呼ばれた故スティーブジョブズでしょうか。それとも初めてアフリカ系でありながら、アメリカの大統領となって世界的な権力を持っているバラク・オバマでしょうか。

聖書で人として歴史上だれより最高の知恵者、最高の富、最大の権力などを享受(きょうじゅ)した成功者のような人物がいました。もうみなさんもお存知のように、信仰の父ダビデ王から生まれ、イスラエルの統一王国の3番目の王ソロモン王でした。彼が王として国を治めていた時期はイスラエルの歴史上一番豊かな時代でした。歴史上一番国の広い領域を確保し、ソロモン王の時代イスラエルの民たちは最高の繁栄と栄華と富の時を迎えられました。

それがどれほどだったのか、例えば、聖書にソロモン王が座っていたイスは象牙(じょうげ)で作られ、その上に黄金で上塗りをしていたと書かれています。そして伝えられて来ている話によると、彼を警備していた兵士たちは金をかぶらせた盾を持ち歩いたそうです。

ソロモンの富と栄華というのは歴代最大で一番代表的です。

それだけではなく、ソロモン王の智恵はあまりにも卓越したため聖書は彼の智恵は空前絶後(くうぜんぜつご)だと書かれています。彼の智恵というのは列王記第一3、4章を読めば分かると思いますが、ソロモンが神の御心になつたいけにえを捧げた後に神から授けられたものです。第一列王記4章30節では“それでソロモンの知恵は、東のすべての人々の知恵と、エジプト人のすべての知恵とにまさっていた。”

当時、ソロモン王の名前はイスラエルの地のみならず、世界的にも知られるほど広がっていたと聖書は教えて下さっています。

彼はあらゆる学門についての知識だけではなく、時代や宗教、学門などあらゆる分野の智恵に卓越していた王でした。

ソロモン王の知恵を求めてあの遠い国エチオピアの女王さえも尋ねて来られた事がその一つの証拠であります。

愛するみなさん、このように智恵と富に満たされあんなにこの世で人が望んでいた全てのは手に入れ、成功した人物のように見えたソロモン王でしたが、ソロモン王でさえ解決できなかった人生の課題は何だったのでしょうか。神によってソロモン王の人生の最後の老年の時期に書かれた今日のこの伝道者の書にはその二つの課題について書かれています。

一つ目は、人生の空しさの課題でした。

ソロモン王は人生のむなしさを埋めれる道はどうしても日の下では見つかりませんでした。

この意味は、ソロモン王は富と権力と知識と智恵を手に入れたのにも関わらず心の真の満足を得ることが出来なかったわけです。‘金を一度だけでも良いから、使い放題に思い切って使ったら、それこそ人生の真の幸福となり、人生の満足を得ることになるのではないか。’とか、‘世の人たちの上に立って思うままに扱える権力と名誉さえあれば、みんながうらやましくなりそれこそ真の人生の満足と幸福を得るのではないか’、‘だれでも認められる最高の名門の大学や各位をとれば、人生の幸福を手に入れ、保証になるのに。’とよく思い込んでいた人々にソロモン王は‘決してそうではありませんよ！’この伝道者の書には書かれています。

今日の本文伝道者の書1章2～3節を見て見ましょう。“空の空、伝道者は言う。空の空、すべては空、日の下でどんなに労苦しても、それが人に何の益になろう。”

そうです。これがソロモン王の人生の末のごろ、神の御前で今までの人生を振り返って見た正直な告白でした。

ここで“空”という単語の原語の意味は、‘息を吹き掛ける’という意味です。例え、寒い時、手に息をふきかけると、その息が白く目に見えますが、すぐ消えて見えなくなるのではありませんか。それほど世のすべてが一瞬のものですぐ消え去るものであるため、むなしという言葉が使われたのです。そういうわけで伝道者の書でこの単語は頻繁に出ているのです。

そして、1章8節で、“すべてのことはものうい。人は語ることさえない。目は見て飽きることもなく耳に聞いて満ち足りることもない。”と書かれています。要するにすべての事に真の満足がないということです。16-17節を見ると、ソロモン王は多くの智恵と知識を手に入れたのにも関わらず、それもまた風を追うようなものに過ぎなかったと書かれています。18節には“智恵が多くなれば悩みも多くなり、知識を増す者は悲しみを増す。”

人の知恵も知識も真の満足を与えず、むしろさらに悩みと悲しみが増し加えられるということです。どなたか2章22節～23節を読んでくださいませんか。“実に、日の下で骨折ったいっさいの労苦と思ひ煩いは、人に何になろう。23その一生は悲しみであり、その仕事には悩みがあり、その心は夜も休まらない。これもまた、むなしい。”

そして2章17節には、“私は生きている事を憎んだ。日の下で行われるわざは、私にとってはわざわいだ。すべてはむなしく、風を追うようなものだから。”と言っています。ソロモン王は絶対的な、強大な権力とたくさんのお金と卓越した智恵を持っていたとしても人生の空しさを取り除くことが、手放すことが出来ませんでした。“（伝道者の書5:10）金銭を愛する者は金銭に満足しない。富を愛する者は収益に満足しない。これもまた、むなしい。”実はソロモン王だけではなく、父のダビデもそのような告白を神の前でしています。“ご覧ください。あなたは私の日を手幅ほどにされました。私の一生は、あなたの前では、ないのも同然です。まことに、人はみな、盛んなときでも、全くむなしいものです。セラ（詩篇39:5）”

そして、伝道者の書の2章を読んで見ると、ソロモン王は人生の他の楽しみを味わうと、空しさをなくすことができるかと思いました。2章2節～8節まで読んで見ますと、彼はまず、酒を飲み事にはまってみました。はでやかな邸宅（ていたく）をたくさん建てて住んで見ました。それも飽きてしまい、時には自然な環境を味わおうとし、庭と園を作り、ぶどう畑を設け、あらゆる種類の果樹（かじゅ）を植えたり、多くの牛や羊をも飼ってみました。それも疲れてしまいむなしくなりました。ソロモン王は後にはそれも違うと思ってたくさんの女性たちと付き合い、次々と女性を変えながら結婚までも何度もやって見たり、人生の快樂をも楽しんで味わって見ました。多くの男女の歌うたいを立たせて毎日パーティーを開いたり、列王記第一11章を見ると、信じられないことに700人の王妃としての妻と、300人のそばめがあったとかかかれています。（第一列王記11:4）それでも襲い掛かって来る人生の空しさの前では避けられず、何の打ち勝つ力がありませんでした。

伝道者の書2章10節に書かれたように、ソロモン王は“私は、私の目の欲するものは何でも拒まず、心のおもむくままに、あらゆる楽しみをした。実に私の心はどんな労苦をも喜んだ。これが、私のすべての労苦による私の受ける分であった。”

人としてソロモン王はやって見なかった事はあんまりなかったように見えます。

その人生の結果彼の心境はどうでしたか。2章11節です。“しかし、私が手がけたあらゆる事業と、そのために私が骨折った労苦とを振り返ってみると、なんと、すべてがむなしいことよ。風を追うようなものだ。日の下には何一つ益になるものはない。”と告白しました。肉体的な快樂はまるで麻薬や中毒の注射をしてもらうことと同じで、薬の気が残っている間は天国にいるようですが、その薬の効果がなくなるとなぜか空しくまた飢え乾きの自分に戻ってしまったソロモンの繰り返しの姿でした。

伝道者の書4章2節で、ソロモン王の彼の人生の結論をこう出しています。

“私は、まだいのちがあって生きながらえている人よりは、すでに死んだ死人のほうに祝いを申し述べる。”

結局ソロモン王はだれよりも忙しく、一生懸命に生きて来たのにもかかわらず、結局自分に残ったのは空しさだけでした

愛するみなさん！ソロモン王がどれほど空しかったのでしょうか。もし彼が現代に生きていたならば、どれほどひどい病にかかったと思いますか。あまりにもその空しさが大きかったため伝道者の書にはよくむなしいと書かれています。神はソロモン王を通してこの伝道者の書を通して人生のむなしさというのはだれも解決されないことを教えて下さっています。全てを手に入れ、この世では成功したあのソロモン王でさえも解決できなかった課題がこの人生の空しい問題でした。

いくら金でも、どんなに絶対的な権力でも、優れた智恵でもこの人の空しさを埋める事はできないことを教えて下さっているのです。

却って自分のほしいものを全部手に入れた人こそ、さらに空しくなりやすい面があることも教えられます。

実際今日も人々の中でこのような現象が見られるのではないかと思います。

国民所得が一番高く、福祉制度が一番優れていると言われている国と言えば、ヨーロッパのスウェーデンであります。ところがこの国の自殺率は世界の5位以内だそうです。日本も統計によると、1時間4人が自殺して言っているのではないのでしょうか。世界でみんなが憧れ住みたいと言われるアメリカのサンフランシスコのゴールデンゲートブリッジで身投げをしている人たちのニュースはアメリカではよく知られている話になっています。

イギリスだったのかはつきり覚えてはいませんが、新聞で市民に‘お金ということはいったい何か。どういうことがお金なのか’の質問で公募（こうぼ）を出しました。みなさんはどう思いますか。そこに一等で選ばれた人は大人でもなく、新聞配達をしていたある少年が応募した内容が選ばれます。その少年がお金への定義で出した内容はこうでした。“お金というのは幸福以外には何でも変えられるし、天国以外にはどこにでも行って入れるチケットだ！”その少年でさえも毎日家々に配達をしながら、金持ちの家にも、貧しい家にもお金では人々の真の幸福を買えないことはすでに分かったようです。

すると、みなさん、人生の空しさを解決してもらう道はまったくないのでしょくか。当然伝道者の書では日の下であるこの世の中では人間の力では当然出来ない事を教えて下さっています。だから、逆説に人は日の上の創造主の神を、イエスキリストを見上げなさい！教えて下さっています。主イエスキリストは人生の苦しみと叫びを賛美に、救いの恵みに導いてくださいます。

使徒働き14:15：“「皆さん。どうしてこんなことをするのですか。私たちが皆さんと同じ人間です。そして、あなたがたがこのようなむなしいことを捨てて、天と地と海とその中にあるすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝えている者たちです。”

“箴言 31:30: 麗しさはいつわり。美しさはむなしい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。”

神を信じ、イエスキリストを受け入れた方々にはこの世の人々が持っている成功の基準には至らないところがあり、いろんな面において足りないところがあります。世の人たちと同じように人の限界、もどかしさ、様々な悩みも、問題も、苦しみも、疲れ果ててしまう時もありますが、イエスキリストを受け入れ、神を信じる者たちには決して人生の空しさはありません。

“すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

（マタイ11章28～29）”

人生の最後に空しかったと叫びと涙もありません。願っていた、望んでいた全てを手に入れなかった、かなえられなかったとしても、今生かされている日々、今まで守られ、導かれて、愛されて来た神の恵みを覚えながら感謝する事が出来ます。どんなに悲しくても絶望から立ち上がって賛美し、歌えることができるのは、神の約束の救われ、永遠の命が与えられ、神の御国が自分のために待っていることの変らない希望を抱いているからではないでしょうか。そのため使徒パウロはこう告白しています。ピリピ人への手紙4章11-13節です。“乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。12私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。13 私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです。”

もう一つソロモン王でさえも解決できなかった問題は人の死の問題でした。死というのはいくら権力があり、お金があり、智恵があるとしても避ける事も、見逃す事ができなかった悩みでした。伝道者の書1章4節を見ると“一つの時代は去り、次の時代が来る。しかし地はいつまでも変わらない。”そして2章16節では“智恵ある物も愚かなものと共に死んでいなくなる。”と言っています。人が一度死ぬということを知らない人はだれもいませんが、自分が死ぬ事にあまり考えたくも、いいふうに思っている人も少ないでしょう。避ければ避けたいし、逃げたいけど、しかし医学や科学がいくら発展したとしても常に‘死’という影は私たちにくっついてきます。神の許しによって生まれ、始まった人生は必ず世でのその人生の末が待っているわけであり、みんないつまでかはみんな分らないけど、その人生の末までに走っています。死ぬ事に恐怖を、その後どうなるかについての不安を抱えています。中国の智恵の人と呼ばれた儒教の公子は72才に亡くなりそのお墓も中国の山東省(さんとうしょう)にあるし、イスラムのムハマド・マホメットのお墓はサウジアラビアのマディーナのところにあり毎年数百万人のイスラム教徒たちの巡礼客がそのお墓を拝むために尋ねています。仏教を立てたシャカムニ(シャカ族の成人という意味)もB.C.536年にヒマラヤ山脈にあるカピラ国のムムビニというところで生まれ、50年間修行(しゅぎょう)しながら80才に亡くなり、火葬した後残りの遺骨は彼を記念した46mの塔を建てその中に保管され、今日も多くの仏教徒によって拝まされています。これは言いかえりますと、どんな智恵者も、権力者もみんな人の死の問題を解決することが出来なかった事を明らかにしてくれます。

すると、この人の‘死’という問題をも解決する道はないのでしょうか。当然人間の力からは不可能ですが、神は御子イエスキリストのみを通してこの問題を解決できることを明確に教えて下さっています。みなさんもご存知のようにイエスキリストのお墓は拝んだり、注目される場所になってはいません。なぜなら、イエスキリストのお墓は今も空いているからです。イエスキリストが十字架に付けられ、三日間死に葬られましたが、聖書の預言の通りよみがえられたためコリント人への手紙第一15章によると、復活のイエスキリストを500人以上が目撃したと書かれています。そのイエスキリストはこう語って下さいました。“イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。26また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」(ヨハネの福音書11:25-26)”
“私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにして下さいました。(ペテロの手紙第一1:3)”
“事実、わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つことです。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。(ヨハネの福音書 6:40)”
“まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。(ヨハネの福音書 5:24)”
“善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けるのです。(ヨハネの福音書5:29)”
永遠の滅びる死はイエスキリストを信じる人たちとは共存(きょうそん)しません。信じる者たちには永遠のいのちが与えられているからです。

<今日の御言葉のまとめ>

今日神様がソロモン王の人生を教えて下さったのはこの世である成功した個人の物語を紹介して下さるぐらいではありません。このソロモンは我らの人の人生をよく表しているでしょう。ソロモン王でさえ解決されなかった人生のむなしさ、そして死の問題がありました。実は人間はみんなこの問題に悩み、解決は決してできません。

しかし、今日の伝道者の書を通して神はそんな人生である我々にいくら‘日の下で(29回)’その道を探しても、解決しようとしてもできないからこそ、‘日の上’におられる創造主なる神に見上げるように教えて下さっているのです。

12章1節の“あなたの若い日、まだ生ける力があるうちに、あなたの創造者を覚えよ。”

伝道者の書12章13-14節“結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。”

その創造主の神が人生の死とむなしさの問題から我々を救うために御子イエスキリストの十字架の方法を与えて下さったのではないのでしょうか。そこには何の資格も入りません。ただ神の御子イエスキリストによりあなたの人生のむなしさと永遠の死から救われる事を信じるだけで十分であると聖書を通して神は約束してくださっているのです。

愛するみなさん！いかがでしょうか。もう一度この神の恵みの道を共にあゆみませんか。人生の諸問題だけではなく、人として解決できない人生の空しさと死の問題に対してキリストイエスにあってみんな解決されるみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

すでにこの救いの道を歩んでいらっしゃるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさんも人生のむなしさと死の問題から救われている恵みを確かめ、救いの確信の信仰を保って歩める新しい11月となりますように主イエスキリストの尊い御名によってお祈り申し上げます。アーメン！“しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えて下さったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいます。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。(ヨハネの第一の手紙 5:20)”